

# 緑創

も・く・じ CONTENTS

- 全林研齋藤会長挨拶 ..... 1
- 林野庁安高研究指導課長「巻頭言」 ..... 2
- 全林協中山専務理事「林業普及と林業研究グループ」 ..... 3
- 全国林業グループコンクール ..... 4
- 全林研通常総会 ..... 8
- デジタル広報推進委員会から ..... 9
- 全国林業後継者大会 ..... 10
- 全国がんばる林業高校生表彰 ..... 13
- はつらつコーナー ..... 14
- お知らせ ..... 20

## 全林研だより「緑創」の発行にあたって

全国林業研究グループ連絡協議会 会長 齋藤 正

We Love Forest!

皆さんこんにちは、全林研会長の齋藤正でございます。

私たちの会誌『緑創52号』発行にあたりご挨拶申し上げます。

皆様には、コロナ禍また各地で頻発している異常な気象災害、ウッドショックなどの影響によ

り、大変ご苦勞を頂きながら林業を継続され、地域経済を下支え

し、地域維持または地域振興にご尽力頂いております事に、深い敬意と感謝を申し上げます。

さて、今回お届けしました『緑創52号』は大きく2つの点で変化

させました。変化といたしまして、

①前号までの県林研単位での配布に加え各単位林研会長へも直接配布させて頂き、より確実に情報の到達を具現化させて頂きました。

②今まで好評をいただいております女性会議会誌『はつらつ』を予算等の関係で発行維持が困難となった為に統合する事とし、女性会議の情報をお届けする事にしました。

また、各種行った行事情報や、総会時に仮決算であった決算情報の報告、また林業普及と全国林業研究グループ連絡協議会が現在置かれている状況と、今後進むべき方向を示すべき情報を一部掲載させて頂きました。

全林研は、今後も様々な経済環境や気象環境の変化や行政の施策

変化の中においても『林業・木材業を通じて地域振興』を目指し、

着実に全国のメンバーに対し情報を届け、メンバーの声を中央に届ける組織であり続けます。その為

に、情報の直接配布、デジタルコミュニティの推進、中央での研修

会強化を図り真に強いリーダーを育成し地域林業強化に努めてまいります。そして私たち林研の着実

な事業執行が全国メンバーのアイデンティティ(存在意義)を上げて

社会的向上に繋がる事を願っております。

皆様におかれましては、是非この会誌の情報に目を通して頂き

まして、各地での活動に對しまして、一助にさせていただければと思

います。

結びに、メンバーの皆様の益々

のご活躍と、林業の活性化と地域振興！労働安全、世界平和の実現

をご祈念いたしまして、挨拶いたします。





# 林業普及と 林業研究グループ

一般社団法人 全国林業改良普及協会 専務理事 中山 聡

すべての産業の原動力は「人」であり、その「人」を育てること（人材育成）は非常に大切です。

林業ではその人材育成を、森林所有者（林家）等に対して、知識や技術を伝える「普及」によって行ってきました。それも、国と都道府県という公的機関が行ってきました。公的機関が関与した普及が行われている産業は少ないと思います。

林業普及において、森林所有者等からなる林業研究グループ（以下、「林研グループ」という。）は大きな役割を果たしてきました。これは、普及員による普及が効率的に行えるというメリットもありましたが、林研グループ自らが様々な取組を行う中で、林研グループは普及を行う主体となったからです。

このような林研グループの活動については、閣議決定される「森林・林業白書」にも記載があり、国がその活動を認めています。

一方、これまでの間、林業の収益は低下し、多くの森林所有者（林家）は自ら施業を行うことができず、施業の担い手

は、主として、施業を専業とする森林組合や林業事業体に移ってきています。このため、林業普及の対象は森林所有者（林家）のみならず、森林組合等も対象となっています。

このような中、林研グループには、既に、森林所有者に限らず、森林組合や林業事業体の方を含む、多くの森林・林業関係者、さらには森林・林業愛好者も参加しています。林研グループは、いわば、すべての森林・林業関係者の集まりとなっています。

このように様々な森林・林業関係者からなる林研グループは、林業普及を効果に行うために大きな役割を果たすことができます。

また、様々な人が集まれば、様々な情報の交換も行われ、様々なチエが生まれる可能性があり、このことは林業のみならず、地域維持・発展にもつながります。

このような林研グループから、普及が目指す林業界が求める「人」が数多く育つことを期待しています。

## 巻 頭 言



林野庁 森林整備部 研究指導課長 安高志穂

全国林業研究グループ連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から森林・林業・木材産業行政の推進に格別のご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。加えて、林業グループの活動を通じて、技術や知識の普及、後継者の育成をはじめ、林業の発展及び地域の活性化に向け取り組まれていることに対しまして心より敬意を表します。

先人たちのためまぬ努力により育まれた我が国の豊富な森林資源を次世代へ引き継いでいくためにも、伐採後に再造林をしつかり行い、「伐つて、使つて、植えて、育てる」という形で循環利用し、森林の持続性を確保していくことが非常に重要となっています。この森林の持続性を確保するためには、林業の持続的かつ健全な発展が必要であり、その実現に向け、林業をより魅力のある産業にし、未来の林業を担う後継者を確保、育成していくことが大切です。

ましては、スマート林業への転換や、デジタル社会への対応の観点から、デジタル広報推進委員会を立ち上げられ、YouTubeチャンネルやFacebook等を通じ、再造林の重要性や低コスト造林等の情報発信を進められています。また、次世代の人材育成の観点から、林業高校生の表彰や林業体験学習受入といった未来の林業を担う後継者を育成する活動にも積極的に取り組まれています。これらの取組の中では、例えば、高校生が、実際の林業の現場で伐倒や林業機械の操作等実践的な体験を行うことは、森林や林業の魅力を感じることができ、貴重な機会となっています。生徒自身が自分の就業を具体的に想像できるようになることで林業に関わる仕事を将来の進路の選択肢に入れるきっかけになるほか、学校と林業事業者との間に交流が生まれ就業に繋がるなどの事例も見受けられ、大変嬉しく思っております。林野庁では、次代の林業を担う人材の確保・育成

を図るため、①高校生等を対象とする林業への就業の促進、②後継者養成に意欲的な林業グループの活動、③女性林業者や林業に関心のある女性の活躍促進に向けた支援に取り組んでいるところです。貴協議会の会員の皆様におかれましては、本事業をご活用いただき、各地域や林業グループ等での取組の一助となれば幸いです。このたび、貴協議会発行「緑創」と、貴協議会女性会議発行「はつらつ」を合併され、新たな「緑創」には「はつらつコーナー」が設けられ、女性会議の活動等が取り上げられると伺っております。さらに、貴協議会のWebサイトの立ち上げにも取り組んでおられると伺っております。全国の1万4千人を超える貴協議会会員の皆様、それぞれの地域で取り組む個性豊かな研究成果や様々な活動内容が、会員間の情報共有はもとより、広く情報発信され、貴協議会の活動が一層活性化し発展されますことを心よりご期待申し上げます。

# 全国林業グループコンクール

## 農林水産大臣賞 は静岡県

### 「天竜林業研究会」



令和4年度の全国林業グループコンクール(主催/全国林業研究グループ連絡協議会、協賛/全国林業改良普及協会)が、3月2日、東京都千代田区のアスカディア市ヶ谷 私学会館で、集合とオンラインにより開催され、ブロックコンクールで選ばれた6グループが日頃の活動成果を発表しました。最優秀である農林水産大臣賞には、中部・北陸ブロック選抜の静岡県・天竜林業研究会が選ばれました。林野庁長官賞ほかの入賞グループは下表のとおりです。

なお、審査員には安村直樹氏(東京大学大学院准教授 審査委員長)、宮下茂明氏(全国森林組合連合会 組織部林政課 主任)、大塚生美氏(森林総合研究所東北支所 主任研究員)、中山聡氏(全国林業改良普及協会 専務理事)の4名にお願いしました。



農林水産大臣賞を受賞された「静岡県 天竜林業研究会」の鈴木さん(右)と山田さん(左)。木下研究指導課長(中央)とともに

#### 東京オリンピックへの出材



#### 環境・建築の国際会議に参加



#### 森林環境教育プログラムLEAF (Learning About Forests)



#### 浜松駅前イベント



#### ●天竜林業研究会(静岡県)

当天竜林業研究会は、地域林業の柱となる林家が継続していくために、持続可能な林業経営を目指して活動しています。環境面ではFSC®認証について取り組み、2010年に浜松市全域での認証取得に至るきっかけを作りました。東京オリンピックでは施設の建設のために、浜松市から多くの認証材が送り出され、当会が納材した有明体操競技場では、外壁の多くに天竜材が使用され、2020年ウッドデザイン賞の最優秀賞を受賞しました。

また、フィリピンで行われた環境と建築の国際会議に参加し、当会の会員が講演でFSC®認証の取得や自伐林家の林

業を説明し、世界の建築関係者に天竜林業を紹介しました。社会面では、森を守るために行動できる人を育てることを目的として森林・林業の啓蒙活動に努めており、当会の森林環境教育プログラムLEAF (Learning About Forests)のインストラクター6名により、森林の生態学的、社会的、文化的、経済的な価値を楽しみながら学ぶ機会を作っています。また、浜松駅前でのイベントに参加することで、多く人の目に留まる活動をしています。経済面では、木材の価値を高めることや木材以外の収入源を作り出すことを目指しています。

#### 令和4年度全国林業グループコンクール入賞一覧

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 農林水産大臣賞            | 静岡県 天竜林業研究会   |
| 林野庁長官賞             | 山形県 朝日町愛林会<br>東京都 エンジヨイ・フォレスト女性林研<br>兵庫県 特定非営利活動法人バイオオマノ丹波篠山<br>徳島県 馬路一夢(いっばい)会<br>熊本県 くまもと Learning Club   |
| 全国林業改良普及協会会長賞      | 北海道 杉の子林業グループ<br>茨城県 もりとわ<br>長野県 高水林業協議会<br>愛知県 奥三河自然と歴史にふれあう会<br>和歌山県 熊野川町林業研究クラブ<br>愛媛県 宇和島地区林業研究グループ連絡協議会<br>宮崎県 高千穂町林業研究グループ連絡協議会   |
| 全国林業研究グループ連絡協議会会長賞 | 青森県 貝守林研Jr<br>宮城県 岩出山林業研究会<br>秋田県 仙北地方林友会<br>福島県 NPO法人南湖森林公園案内人の会<br>栃木県 今市里山育成会<br>群馬県 あかぎ回森つくりの会<br>埼玉県 西川林業クラブ<br>千葉県 特定非営利活動法人ちは森つくりの会<br>神奈川県 宮ヶ瀬生産森林組合<br>新潟県 岩船林業研究会<br>富山県 砺波地区林業研究グループ協議会<br>石川県 能登町林業研究クラブ女性部<br>福井県 竹田山菜生産組合<br>岐阜県 飛騨フォレストレイズ<br>三重県 大紀町林業研究会<br>滋賀県 北近江林友会<br>京都府 京都府林業研究グループ連絡協議会丹後支部<br>奈良県 洞川財産区<br>鳥取県 智頭林業研究会<br>島根県 樹冠ネットワーク<br>岡山県 美作林業経営研究会<br>山口県 下松市林業研究会<br>福岡県 篠栗町林業研究会<br>佐賀県 三瀬林業研究会<br>長崎県 東彼林業研究会<br>大分県 三重林業研究グループ<br>鹿児島県 牧園町椎茸振興会<br>沖縄県 粟国村ソーツ味噌林業研究グループ |



# 令和5年度 全林研通常総会を開催

令和5年3月3日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷 私学会館において、令和5年度全国林業研究グループ連絡協議会（全林研）の通常総会がオンラインと集合により開催されました。

会長挨拶に続き、来賓の木下仁林野庁研究指導課長、中山聡全国林業改良普及協会専務理事により祝辞をいただいた後、議事に入り、執行部提案の各議案について審議が行われ、全て原案通り承認されました。

全林研の令和4年度決算5年度予算は別表のとおりです。

また、永年功労者に感謝状を贈るとともに、全国林業グループコンクール入賞グループの表彰を行いました。

齋藤会長の挨拶



## 全林研令和5年度予算

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

一般会計		(単位：円)		
科 目	当年度予算(A)	前年度予算(B)	増減(A-B)	
<b>1. 収入の部</b>				
会 費	920,000	920,000	0	
全林 協 助 成 金	1,000,000	1,000,000	0	
事 例 集 販 売 額	500,000	600,000	△ 100,000	
全林研グッズ販売額	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
広 告 料	280,000	280,000	0	
雑 収 入	1,000	1,000	0	
収 入 合 計	5,701,000	6,301,000	△ 600,000	
<b>2. 支出の部</b>				
会 議 費	1,800,000	1,800,000	0	
事 業 推 進 費	200,000	200,000	0	
機 関 誌 発 行 費	900,000	900,000	0	
事 例 集 発 行 費	500,000	600,000	△ 100,000	
全林研グッズ制作費	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
緑の募金拠出金	50,000	50,000	0	
事 務 局 費	380,000	200,000	180,000	
支 出 合 計	6,830,000	7,250,000	△ 420,000	
当 期 収 支 差 額	△ 1,129,000	△ 949,000	△ 180,000	
前 期 繰 越 額	14,777,501	15,155,912	△ 378,411	
次 期 繰 越 額	13,648,501	14,206,912	△ 558,411	

特別会計(国庫補助金) (単位：円)

科 目	当年度予算(A)	前年度予算(B)	増減(A-B)	
<b>1. 収入の部</b>				
収 入 合 計	21,118,000	23,296,000	△ 2,178,000	
<b>2. 支出の部</b>				
支 出 合 計	21,118,000	23,296,000	△ 2,178,000	

## 全林研令和4年度決算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

一般会計		(単位：円)		
項 目	決算額	予算額	差引増減	
<b>1. 収入の部</b>				
会 費	920,000	920,000	0	
全林 協 助 成 金	1,000,000	1,000,000	0	
事 例 集 販 売 額	431,604	600,000	△ 168,396	
全林研グッズ販売額	2,921,160	3,500,000	△ 578,840	
広 告 料	280,000	280,000	0	
雑 収 入	11	1,000	△ 989	
収 入 合 計	5,552,775	6,301,000	△ 748,225	
<b>2. 支出の部</b>				
会 議 費	1,451,908	1,800,000	△ 348,092	
事 業 推 進 費	145,308	200,000	△ 54,692	
機 関 誌 発 行 費	866,620	900,000	△ 33,380	
事 例 集 発 行 費	495,737	600,000	△ 104,263	
全林研グッズ制作費	2,628,720	3,500,000	△ 871,280	
緑の募金拠出金	50,000	50,000	0	
事 務 局 費	292,893	200,000	92,893	
支 出 合 計	5,931,186	7,250,000	△ 1,318,814	
当 期 収 支 差 額	△ 378,411	△ 949,000	570,589	
前 期 繰 越 金	15,155,912	15,155,912	0	
次 期 繰 越 額	14,777,501	14,206,912	570,589	

特別会計(国庫補助金/未来の林業を支える林業後継者養成事業) (単位：円)

項 目	決算額	予算額	差引増減	
<b>1. 収入の部</b>				
未来の林業を支える林業後継者養成事業	23,296,000	23,296,000	0	
<b>2. 支出の部</b>				
未来の林業を支える林業後継者養成事業	23,296,000	23,296,000	0	

# デジタル広報推進委員会から

全林研では会員の皆さまへの積極的な情報発信を目的として、昨年、デジタル広報推進委員会を立ち上げましたので、その趣旨等についてお知らせします。

デジタル広報推進委員会では、情報化社会において「ソサエティ5.0」の社会を目指すため、デジタルトランスフォーメーションを推進し、進めることにより新たな林研活動の在り方、可能性を探ります。

「ソサエティ5.0」とは、ネット空間と実世界が高度に融合され、経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の社会だといわれています。そんな社会では「いつでも・どこでも・誰とでも」つながることにより「今だけ・ここだけ・あなただけ」の会員の皆さんの価値感が光り輝く時代だと言えます。

「デジタルトランスフォーメーション・DX」は多くの会員の皆さんとデジタル技術を通して「つながる」環境を整えていくことです。

第一段階として現在Facebook・

YoutubeなどのSNSを利用した積極的な情報発信を始めています。またHPの作成にも取り掛かっており会員の皆様の相互情報交換の場としての利用運営を考えています。

これからの課題としては、SNSの積極利用を通して、会員との深いつながりを持った関係性を増進させ、相互情報交換の場を広げるとともに、他の組織や業界との対話協働においてネットワーキングを促進し、最新のトレンドや優れた手法の共有による、相互成長を模索したいと考えています。

これらに基づいて、情報発信を効果的に展開し、より広い林業関係者・次世代を担う人材に対して魅力的なコミュニケーションを実現することを目指します。

Homepage

Facebook

Youtube

# DX Society5.0



パネルディスカッション コーディネーターの  
山本岩手大学農学部教授

パネルディスカッション パネリストの皆さん

オープニング盛岡さんさ踊り



# 第51回 全国林業後継者大会 いわて2023

「第51回全国林業後継者大会いわて2023」が6月3日、岩手県盛岡市の盛岡市市民文化ホールで開かれ、全国から林研グループ等林業関係者約470人が参加しました。  
(主催者) 岩手県林業研究グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会、盛岡市、岩手県

この大会は、昭和45年、全国植樹祭の前日に福島県猪苗代町において、「全国林業後継者のつどい」として開催したのが始まりです。これを契機に「全国植樹祭関連行事」として、各県で開催されるようになりました。

開会式典では、齋藤眞琴第51回全国林業後継者大会岩手県実行委員会会長の開会の言葉にはじまり、菊池哲岩手県副知事、黒田仁志全国

林業研究グループ連絡協議会副会長の主催者挨拶、谷藤裕明盛岡市長による歓迎の言葉、来賓の織田央林野庁長官、佐々木宣和全国林業改良普及協会副会長が祝辞を述べられました。

活動発表では、三田農林株式会社代表取締役社長・岩手林業株式会社代表取締役三田林太郎さん、釜石地方森林組合 理事兼参事 高橋幸男さん、横澤林業株式会社専務取締役横澤孝志さん、株式会社柴田産業代表取締役柴田君也さん、いわて林業アカデミー・岩手県林業技術センター首席専門研究員 小澤洋一さん、有限会社フォレストサービス則竹彩絵さん(いわて林業アカデミー第3期修了生)がそれぞれの取組みを発表しました。

また、「次代を担う若者が意欲と希望をもって活躍できる魅力ある林業の確立に向けて」をテーマとして、国立大学法人岩手大学農学部教授の山本信次さんをコーディネーターとして、パネリストとして活動発表された6名によりパネルディスカッションが行われ、それぞれ立場から



齋藤実行委員会会長開会の言葉



織田林野庁長官祝辞



黒田全林研副会長挨拶



佐々木全林協副会長祝辞

豊かな森林を次世代に引継ぐための活発な討論が行われました。

閉会式典では、いわて林業アカデミー修了生で、山中林業の山中崇義さんと有限会社アイシンフォレストの松倉彩歩さんにより、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を進めながら、森林を適切に整備・保全し、次世代にしっかりと引き継いでいくことが私たちの役割、との大会宣言がなされました。

## 未来の森林・林業を担う

# 令和4年度全国がんばる林業高校生表彰

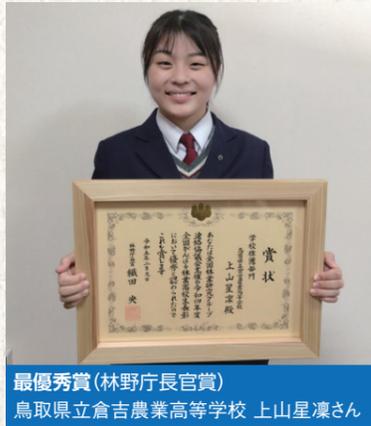
### 林業高校は全国に71校

全林研が主催する「全国がんばる林業高校生表彰」は、未来の森林・林業を担う人材として、地域の森林・林業の振興及び、課題等の解決を目指して取り組んでいる意欲的な活動・研究に取り組む林業高校生を応援する表彰行事です（後援：林野庁、協賛：全国林業改良普及協会）。

森林・林業に関する科目を開設している高等学校は、全国に71校あります（令和5年4月現在）。林野庁調べ。本表彰行事には、「学校推薦部門」15件、「地域活動・研究部門」10件の応募があり、各部門において一次審査を通過した6名、6チームが、2月9日の二次審査においてオンラインプレゼンテーションによる発表を実施し、受賞者が決定しました。

### 先輩の研究をしっかりと引き継ぐ

鳥取県立倉吉農業高等学校で行われた表彰式には鳥取県林研グループ連絡協議会・林正晴会長が、熊本県立芦北高等学校で行われた表彰式に



最優秀賞（林野庁長官賞）  
鳥取県立倉吉農業高等学校 上山星凜さん

は全林研から黒田仁志副会長（宮崎県）が駆けつけて、受賞した高校生にエールを送りました。

以下は、黒田副会長からのメッセージです。

「全林研が主催する全国がんばる林業高校生表彰で2年間、オンラインで開催される2次審査会の司会を務めた。12時半に始まり5時過ぎまでの長丁場だが、高校生の熱心な発表を聞いていくうちにあっという間に時が過ぎていく。全国各地で、それぞれの課題に取り組む高校生に頭が下がる思いだ。先輩が始めた研究をしっかりと引き継いでいく姿にまさに林業の縮図を見ているようだ。」



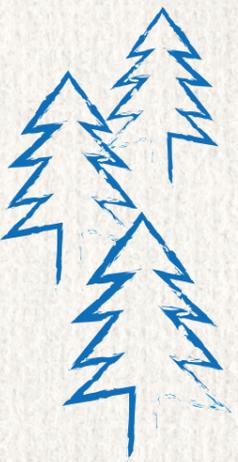
最優秀賞（林野庁長官賞）  
熊本県立芦北高等学校・林家ハンター班  
（左から、吐合陽海さん、池田健真さん、上村安寿磨さん）

昨年度の林野庁長官賞の熊本県立芦北高校に表彰伝達に伺った。リモートでしか会っていなかった高校生たちにじかにあってみるとその初々しさを肌を感じることで、とても楽しい一時だった。できればこのように対面で話しかけたい。高校生もなかなか忙しく、リモート開催がベターなのかなとも思う。

林研グループも高校生に負けないよう、地域の課題解決に奮闘していきますよ！



熊本県立芦北高等学校 林家ハンター班 吐合、上村、池田  
芦北高校のプレゼンテーション（発表の冒頭）



## 大会宣言

本日、私たちは、岩手県盛岡市に集い、「つなげよう 豊かな森林を 次世代へ」をテーマに意見を交わし、私たち林業に携わる若い世代が率先して、「森林・林業の重要性などを発信し、豊かな森林を継承していくこと」を確認しました。

先人たちが守り、育てた健全で豊かな森林は、木材の生産のほか、水源のかん養、災害の防止、さらに、地球温暖化の防止など、私たちの生活に多くの恩恵を与えてくれる大切な財産です。

この大切な財産を守るため、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を進めながら、森林を適切に整備・保全し、次世代にしっかりと引き継いでいくことが私たちの役割です。

この大会を契機として、私たちは、これからも森林・林業の魅力を発信し、林業に誇りを持ち、この豊かな森林を次世代に繋いでいく取組を一層進めていくことを宣言します。

令和5年6月3日

第51回全国林業後継者大会いわて2023



大会宣言



次期開催県挨拶

続いて、第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会の三木敬臣会長から次期開催県の挨拶があり、岩手県実行委員会北田雅浩副会長による閉会の言葉により幕を閉じました。

## 令和5年度 林研ユニフォーム等のご案内

Tシャツ、ポロシャツ、ブルゾンやタオル等の制作・販売を行っています。林業グループコンクールをはじめ、林研事業の実施や各地で開催されるイベントなど、さまざまな活動の場でご活用ください。

便利な胸ポケット付き

UVカット機能付き

便利な両脇ポケット付き

●グリーン ●レッド  
エプロン...2,000円

●ネイビー ○ホワイト  
●アーミーグリーン  
長袖ドライTシャツ...1,700円

○ホワイト ●ブラック  
帽子...1,600円

その他のアイテム

表 裏

タイピン 700円

下敷き1枚 100円  
・100枚以上 50枚単位  
・B5サイズ

■お申し込み・お問合せ先

お求めは、グループまとめて都道府県林研連事務局へお問い合わせは、全国林業研究グループ連絡協議会03-3500-5033まで  
※令和5年度林研ユニフォームのチラシはこちらからご覧いただけます。▶

令和5年度の本表彰行事のエントリーは、9月4日～11月2日まで。お近くの林業高校生、先生に働きかけて、大勢の未来の森林・林業を担う高校生にエントリーいただけるようご協力をお願いします。表彰の詳細は、QRコードからご覧ください。

# はつらっコーナー



## 新しい活動に向けて

全国林業研究グループ連絡協議会  
女性会議代表 坂本ちづる

日頃より女性会議の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。今夏の線状降水帯の豪雨で、各地で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、私たちの活動も徐々にではありますが変化し前進する事でしょう。

例えば、平成9年女性会議発足の時、北海道から沖縄までの若い林業女性が集まり、目の輝き、発言の仕方、吸収しようとする耳の傾け方、凄いなたちばかりだと圧倒されると同時に、先が頼もしくもありました。

それから25年、私たちはリモート、オンラインでの交流も出来るようになりま

した。林業女性の確かな成長を感じます。時間が経つと消え失われていくものがある中で林業女性は少しづつではあります、山を、そして地域を動かしてきたように思います。

皆様の活動内容は、女性会議が発足時より編集・発行してきた女性会員向けの情報誌「はつらつ」でお伝えしてきましたが、この形も一区切りとし、本誌「緑創」に「はつらつ」コーナーを設け、より多くの方々に女性の活動を発信していくことになりました。そして、女性会議も新しい活動に向けて勉強をしているところです。

皆様、これからは緑創のコーナー「はつらつ」を通じて、連携を密にし、女性会議の目的達成に向けて活動ががんばりましょう。

### 全林研女性会議規約

(目的)

第1条 この会は全国の森林・林業にかかわる女性相互の連携を密にし、住みよい地域社会づくりのため農山村女性の地位向上とグループの活性化を図り、緑豊かな国土を守ることを目的とする。

## 明日の林業への挑戦

令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大で制限されていた林研グループの活動も、本年5月より感染症5類に分類され、イベントが旧来どおりに復活し始めています。みなさんはこれからどんな活動に取り組みますか。今号では、全林研女性会議理事7名が今取り組んでいること、考えていることを紹介します。



NPO法人SCR(宮城県)



里山で人も蜂も笑顔に

千葉恵美

特定非営利活動法人SCRは、宮城県で自然再生活動を行っています。当会は2012年に子どもたちや地域の方々に自然にふれることの素晴らしさやものづくりの大切さを伝えたいと立ち上げた団体です。女性ながら山仕事に入ったり間伐材を使った木工教室など様々なことに

挑戦を惜しまない元気印の女性の集まりです。その中に自然に恵まれているという証にもなる日本みつばちの飼育がきっかけで5haの山林を後ろに控えた休耕田を地域の方から借入し、みつばちの里再生として8のつく日にサポーターさんを募り、林縁の開拓や蜜源植物の耕作に勤しんできました。



ミツバチの巣箱の内検の様子

今年で5年目、地域おこし協力隊の若い力も加わり、市内中学校の不登校のお子さんたちの学習の場所となったり地域の方々の憩いの場所

なっています。自然の中での活動は計り知れない大きな影響力を持っているようです。暑くても寒くても人を集める魅力。いつの間にか里を育てる活動が人をも育てる里になってきているようです。

地域、役所といういろいろな方面に派生でつながりができています。8月の今の里は、6月に地元企業のボランティアの方と植えたひまわりが咲き始めました。人も蜂も笑顔にしてくれる里山の活動はこれからも続きます。

お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。ご案内いたします♡



畑と裏山の風景



はつらつに思う

早矢仕恵子

ふたばグリーンレディースネットワーク2000(福島県)

私が女性林研グループを知ったのは23年前、当時の県の担当者から、「今度女性の林業研究グループが立ち上がったので是非参加してほしい、そして全国の女性の活動を地域に持ち帰って役立ててほしい」との事でした。当時は良く意味も解らず、とにかくオリンピックセンターへと行きました。全国から集まって

きた女性林研の仲間との出会い、そしてその時の執行部の皆さんの颯爽とした対応は今でも忘れられませんが、私は出会いというものには奇跡だと思ふのです。

私は船、人生という大海に出航したのはもう、十年前、君は覚えていますか。あの春の日の感動を、そしてその思い出を。思い出というもの

ほど美しいものは他にないと私は思うのです。長い航海の中で時には傷を癒す薬にもなると思うのです。キラキラと輝く心の宝石箱に、今まで出会ってきた方々が輝いています。良い出会いになればなおさらです。迷子になりそうな時は諸先輩方が優しく道案内をしてくれました。女性林研グループの皆さんとの出会いは、色々な意味でお手本になったと思っています。航海中、色々な港で



原発事故により自宅に戻れず、限られた持ち出し荷物の中でこの「はつらつ」だけは持ってきました。



出会う事の軌跡をこれからは楽しみたいと思っています。最近では、個々の活動はインターネットを通して繋がり情報を共有するのが活動の主流になってきている

エンジョイ・フォレスト女性林研(東京都)

### 都市ならうではの活動

山崎靖代

東京というどビルばかりのイメージがありますが、西部の方はたくさん山々に囲まれ、クマやカモシカもでるようなのんびりした地域になります。そのような環境の中、東京で唯一の女性林研であるエンジョイ・フォレスト女性林研は活動をしています。

都市に住む人々や子どもたちに、近いけれど別世界のような大自然がいつばいの森林体験してもらおう機会を提供しています。木工をはじめ、染め物、コケ玉など、山の恵みで何かをつくったり、植林や間伐体験などをすることもあります。

私たちの女性林研は何かを販売することはありませんし、一度も考えたことがないかもしれません。都市の人々に様々な体験を通じて、森の

様にも思います。どんな形であれ出合いは神秘的で奇跡なのです。これからの活動の目標は良い出会いができる女性林研グループでありたいと思っています。

大切さをお伝えするようにしています。幸いなことに体験をして下さる方は多く、様々な新たなリクエストも舞い込みます。行政にもサポートしていただき、ある意味恵まれた環



森林の散策



染め物を乾かしている様子

境なのかもしれません。細かいことを言えば、金銭的にも恵まれていません。林研メンバーには交通費に昼食、少ないですが日当までです。もう少し値上げも可能なので、しっかりとご家族に女性林研に行ってくれると言っていたような環境作りをしたいと思っています。

そして何よりも、参加者の皆様に来て良かったと思ってくただける環境と森林のことが心に残り、様々な形で広めていただければと思います。幼い時の思い出がおとなになっても残るように、活動を続けたいと思います。

こしじの森女性の会(新潟県)

### 若い人への道筋をつくる

星野智生

コロナも5月から5類となり、今年開催は岩手県ということもあり、今年6月に岩手県で開催された全国植樹祭に、息子と2人参加させていただきました。

前日行われた後継者大会では、岩手県の方々の発表に耳を傾けながら、改めて森林・林業の重要性を認識し、一般の人々にも、森林・林業を身近に感じてもらい、その重要性を伝えたいと強く感じました。

その中で、今回、特に印象に残り、新潟にもほしいと思ったのは、林業アカデミーです。

新潟県は農業県のため、農業大学校があり、農業には力を入れています



翌日は植樹祭会場で植樹

林研グループの活動も、色々な方からお話をお聞きし、見識を深めさらに頑張っていきたいと思えます。



全国林業後継者大会いわて2023

林業にも同じように、林業アカデミーのような学びの場が必要だと思えます。これからの若い人に林業を魅力あるもの、身近なものとして考えてもらえるように道を作っていくかなくてはと考えました。

穴水町林業研究会女性部(石川県)

### FCWSに参加して絆が未来へ続くように

坂本ちづる

林野庁の令和4年度「未来の林業を支える林業後継者養成事業」のうち、全林研が主催した、森林資源を活かした新しいモノ・コトづくりや起業活動の促進を図るためのオンライン学習スクール「Forest Creative Womens School (FCWS)」。

私FCWSに参加した理由として、自分の山をどうやったら良い形で子供に継げるか悩んでいたことがありました。最初はついて行くのがやっとでしたが、回を重ねていくうちに自分のするべきことがまとまってきました。

FCWS終了後、受講生から私の山を見に行きたいという声が高まり、「山ツアー」として企画化されました。受講生と事務局のほか、石川県からは林研女性会員、地域林政アドバイザーの方々も参加し、



参加者による「お山を見学してみても考えたプラン」の発表会

FCWSで講師の方が「認知—理解—共感—共働—共創」の流れについて話をされていましたが、正にその通りで、木・森で人がこんなに繋がり、小さな輪が大きなコミュニティになっていく。本当に素晴らしい、感謝感謝のFCWSでした。

お礼の気持ちを込めて、植菌した原木を参加者の皆さんに贈りました。「椎茸できたよー」という便りを待っています。この絆が未来に続いていくことを信じて。



山ツアー参加者達

が思い出されます。

父が手がけ木々が立派に育ち豊かに成長した森も国土の一部ですが、整備されず放置されている多くの山も国土の一部です。そんな立派に育った森でさえ、私も含め、愛情も薄れ、重荷となってしまうている人も多いのではないのでしょうか。

時おり、父から引き継いだはずのロマンと実利はどこにいったのだろうと考えるてしまいます。また、近頃の災害のひどさを見るに、自然が、山が怒っていると感ずるのは私だけでしょうか。

山と共にあり、山さえ持っていれば何代も安泰であり生活が保障されたかに思えた時代はとうに終わり、現代の発達した文明の中で生かされている私たちは、自然とどう向き合い、どのように共存して行くべきなのでしょう。

生命を守り育んでくれた偉大な大自然、山は？川は？これからどう変化して行くのでしょうか。

今の私にはその答えも持ち合わせておりませんし何も出来ませんが、まずは大自然と先人達の努力に一礼し深く考えたいと思います。

和歌山県林業研究グループ連絡協議会女性林研部会(和歌山県)

いつかミツマタの咲く谷で 寒川歳子

早春の頃、奥山で咲くミツマタの花を見るのが楽しみである。

谷川沿いに軽トラックを走らせると、山裾のそこそこに散見できる。いい香りが漂う。江戸の頃より山村の殖産事業としてコウゾと共に製紙材料とされたが、我が村ではここ百年余り使われていない。その花があまりに可愛くて、一人、花見に出かけるのである。

我が家の茅葺屋根に心を砕いて



ミツマタの花



ミツマタの苗(写真中央下)を植える

くれた三人の友人を早春の寒川に招くことになった。その三人が「はじめて見た。かわい。いい香り」と大騒ぎしてくれた。そこへ森林組合を退職した男性が「寒川さん、ミツマタの谷をつくりませんか」と言ってきた。その方にいろいろ世話になり、今年、大量の苗ができた。

梅雨明けした翌日、友人と二人158本の苗を植えてきた。猛暑で



ミツマタの咲く谷に

内子町女性林研グループ(愛媛県)

放置される山を見て 丸山温江

自然の中で生かされている私たちは、自然の恩恵を受け、自然と共存し生活してきました。かつて先人達は、斧ひとつで時

間と愛情をかけ山を守り自然と共にあつたというロマンがあり、実利もありました。暇さえあれば嬉しそうに山に出かけて行く父の姿

美郷町北郷女性林研グループ(宮崎県)

活動することで持続可能な林業への意識と理解が進む 小田ちはる

みなさまいかがお過ごしですか？春過ぎ辺りから、コロナ禍を乗り越え、日本全国がムズムズと動き出した感があります。

私たちも、製造販売19年続く自作のビー玉ゲーム『ぼけない君』の大会を地域や小学校で開催したり、国産メンマについての講習会や竹灯籠作り教室等の活動を精力的に再開しています。



お隣の日向市の小学校で行った、講話とぼけない君大会

こうしたイベントを通じて林業の仕事や森林保全の重要性を伝えることで、より持続可能な林業への意識と理解が進み高まり、また、観光や参加者の物販が増え地域の産業振興に一役買うことで、地域経済の活性化にも繋がっていると思えます。

何よりも、私たち自身が楽しくワクワクする活動を続けていくことで、森林の恩恵を再認識でき、環境保全に対する意識も向上してきました。

もつともつと、多くの人にこの魅力を実感してもらいたい。

これからも、林業の未来に向けた長期的な投資として、種をまき続けて行きたいと思っています！



さっそく地域で行った、ぼけない君トーメント大会

## 令和5年度今後の行事予定等

### ● 全国林業グループコンクール

北海道・東北 ……10月30日(月) ▶青森県青森市 中国・四国 ……10月18日(水) ▶山口県山口市  
関東・山梨 ……8月7日(月) ▶書面開催 九州 ……9月7日(木) ▶鹿児島県鹿児島市  
中部・北陸 ……8月31日(木) ▶石川県金沢市  
近畿 ……9月13日(水) ▶大阪府大阪市

### ● 森林・林業を活かして地域を興す女性リーダーセミナー

日時：令和5年8月31日、9月14日、21日、10月5日、12日 場所：オンライン (zoomにて開催)

### ● 全国がんばる林業高校生表彰

場所：一次審査書面、二次審査オンラインプレゼンテーション  
一次応募期間：令和5年9月4日(月)～11月2日(木)  
二次審査及び結果：令和6年1月24日(水) (予定)

### ● Forest Creative Women's School

(森林資源を活かした新しいモノ・コトづくりや、事業拡張に挑戦したい女性のためのオンラインスクール)  
日時：9月13日～2月8日の夜間約2時間×10回 場所：オンライン講座

● 中央研修会 ……日時：令和5年11月17日(金) ▶海運ビル会議室(東京都千代田区平河町)

● 全国林業普及研修大会 ……日時：令和5年12月1日(金) ▶全国町村会館(東京都千代田区永田町)

● 全国林業グループコンクール、通常総会 ……日時：令和6年2月29日(木)・3月1日(金) ▶全国町村会館(東京都千代田区永田町)

## 全林研のホームページ「zenrinken.com」を開設します。

現在、全林研のホームページは全林協ホームページ内で運用していますが、自由に情報発信できる場として活用できるように新たに「zenrinken.com」を作成し、9月より調整公開中です。修正点等ございましたらご連絡ください。



全林研 Youtube チャンネルを  
開設しています。チャンネル登録を  
よろしくお願いします。



全林研 Facebook も  
「いいね!」をよろしくお願いします。



### 編集後記

全林研会長挨拶でも紹介がりましたが、本号から「緑創」と「はつらつ」を合併し、女性会議に関する情報は「はつらつコーナー」に掲載することしました。これまでの林研グループに関する情報に加え、女性活躍に関する情報についても積極的に発信していきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。(緑創編集委員会)

## 林業経営「創意工夫」表彰行事のご案内

大日本山林会では、林業経営「創意工夫」表彰行事の募集を行います。ご応募お待ちしております。

“創意工夫”  
募集

#### 1. 趣旨

林業経営の現場で役立つ技術的な発明や改良のほか、経営の改善に役立つ創意工夫事案を考案した方を顕彰するものです。

#### 2. 表彰の対象となる分野

森林造成・伐採・撤出から女性の活躍まで、広範囲な分野が表彰の対象となります。

#### 3. 参加申込方法

次のいずれかで申し込んでください。

- ① 創意工夫等を考案した個人(団体)からの直接申請
- ② 創意工夫等を考案した個人(団体)の関係者からの推薦

#### 4. 審査・表彰

外部有識者で構成される「審査委員会」で審査を行い、3点以内に絞って大日本山林会会長が表彰します。

#### 5. スケジュール

- ① 参加申込の受付期間 令和5年9月1日～6年1月31日
- ② 審査 令和6年2月～3月
- ③ 表彰(本会定時総会で表彰) 令和6年5～6月

シカを効率よく捕獲できる小林式誘引捕獲(令和4年度優秀賞)



市販のくり罠を使用

捕獲されたシカと考案者の小林正典さん



公益社団法人 大日本山林会

〒100-0011 千代田区内幸町1-2-1 日土地内幸町ビル2階  
TEL: 03-3587-2551 E-mail: sanrinkai@sanrinkai.or.jp

※応募方法等、詳しくは山林会ホームページをご覧ください。⇒ URL <https://www.sanrinkai.or.jp/>